

2025年8月28日

個人投資家様向け 会社説明会

高松機械工業株式会社
(証券コード：6155)

TAKAMAZ



目次

1

当社のご紹介

2

当社の現状

3

新たな経営方針について

(参考資料)

当資料は、作成時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的に判断した一定の前提に基づいております。経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性がありますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。

1

当社のご紹介



会社概要

お客様に最適な自動化生産ラインを提供する
工作機械メーカー **TAKAMAZ**

代表取締役社長

高松 宗一郎



創業

1948年
(創業77年)

本社所在地

**石川県
白山市**

株式

東証スタンダード
(証券コード: 6155)

連結売上高

138億円
(2024年度実績)

連結従業員数

548名
(2025年6月末現在)

営業拠点

国内 **9**拠点
海外 **7**拠点
(2025年6月末現在)

会社概要

沿革

■ 1948

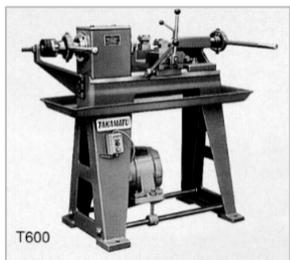
初代社長
高松喜一が個人創業



高松鉄工所創業

■ 1960

工作機械分野に進出



面取旋盤T600

■ 1961

高松機械工業株式会社
を設立



■ 1985

現在地に本社工場移転

■ 2001

店頭登録市場
に上場

自動車部品分野
に進出

■ 2002

I T 関連分野
に進出

■ 2006

東証二部に上場



■ 2018

高松宗一郎
社長就任

■ 2022

あさひ工場新設



当社のフラッグシップ・ファクトリー

東証スタンダード市場
に移行

■ 2023

環境分野に進出



AI・B-sort

事業内容

工作機械事業

123億27百万円

事業内容

- CNC旋盤、周辺装置の製造、販売、サービス・メンテナンス



- コレットチャックの製造、販売



生産拠点

本社工場

あさひ工場



他 第2工場

I T 関連製造

装置事業

13億83百万円

事業内容

液晶基板や半導体などに関する製造装置の製造

生産拠点

開発センター



89%

2024年度
連結売上高
138億円

10%

1%

自動車部品

加工事業

1億82百万円

事業内容

自社製旋盤による
自動車部品の加工



生産拠点

第3工場



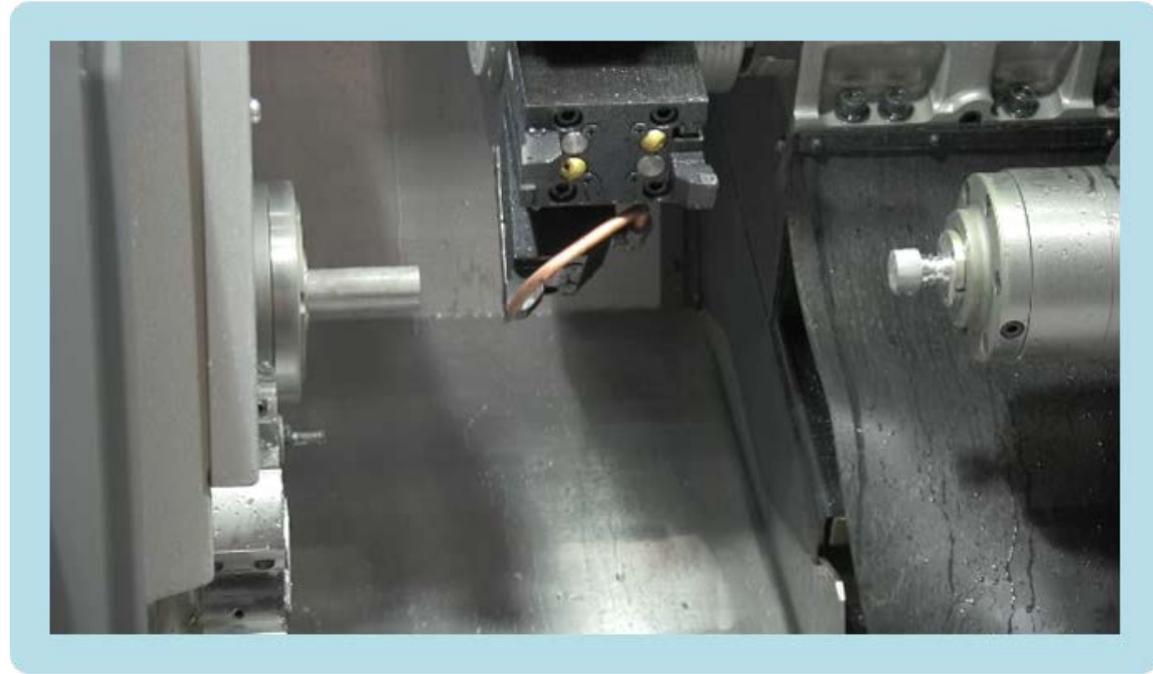
■ 工作機械とは



工作機械とは？

金属を所定の形や大きさに加工し、様々な製品の部品を作る機械。工作機械そのものも工作機械によって作られているため、「機械を作る機械」、あるいは「マザーマシン」と言われている。

CNC旋盤とは



CNC旋盤とは？（CNC: Computerized Numerical Control）

旋盤とは、加工物を回転させ、刃物で切削加工を行う工作機械の一種。

CNC旋盤は、旋盤の中でも、部品加工をコンピュータによって制御し、自動で加工する仕組みを搭載している機械のこと。

生活を支える当社の技術

当社の製品により加工された部品は様々な製品や、生活を支えるものに利用されています

自動車関係

- ギヤ関連部品
- モーター部品
- 足回り部品



- EV・HEV用部品



建築資材関係

- コンプレッサー部品
- エレベータードア部品
- ドアノブ部品
- 照明器具部品



配管・継手関係

- 水栓部品



- ガス機器部品
- 消火用配管部品
- 水道メーター用部品

- 消雪ノズル部品



その他

- 建設機械部品



- 航空機部品



- バイク・電動自転車・自転車部品



当社の強み

《お客様を取り巻く環境》

人手不足・人件費高騰

カーボンニュートラル

SDGs

DX、IoT

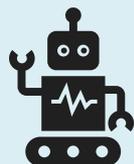
EV・HEV

現代のニーズに応える工作機械製品が求められる

TAKAMAZの強み

自動化技術

自在なカスタマイズ性
人手不足・人件費高騰に対応



製品開発力

一台で何役もの機能を発揮
する機械の開発を推進



高付加価値

より多くのお客様の支持を得る
ためにソフト開発にも注力



➡ お客様のニーズに対応することで
高いリピート率を実現

強み① 自動化技術

豊富なノウハウと自動化装置群

- 早くから自動化に取り組み、実績を積み上げ
- 自動化技術を組み合わせ、お客様に最適の生産ラインを提供

設計～製造まで一貫した生産体制

- 自動化装置・システムを自社で開発



ローダ



ストッカ



洗浄装置



チップコンベア



ロボット



計測装置



お客様仕様の生産ライン

当社CNC旋盤



自動化装置群

強み① 自動化技術

【当社製品で構築された自動生産ライン】



強み② 製品開発力

一台で何役もこなす機械で「工程集約」！

- ✓ 労働人口が減少する中、1台で何役もこなす機械の需要が高まっている
- ✓ さまざまなハイテク産業における、製品加工の複雑化

時代のニーズに応じた製品の開発に注力

「自動化技術×複合加工技術」で解決へ！

【一部機種のご紹介】



XTL-8MY : 回転工具や追加の加工軸を搭載し、複雑な形状にも対応



XTL-8MYS : XTL-8MYの機能に背面加工の機能も追加



XTL-8MYで切削した金属部品（例）
※自動車のシャフトワークなどに使われる
場合が多い。

強み③ 高付加価値

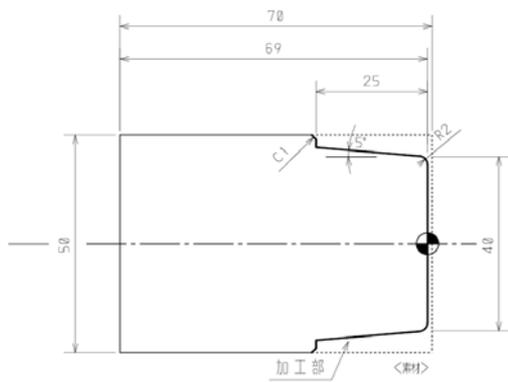
経験の浅い作業員でもミスなくプログラミングできるお助け機能

T-PROGRAM GUIDE (対話プログラム機能) 搭載機種 続々！

効果例：手動で計算しプログラム入力した時とT-PROGRAM GUIDEで要した時間を比較
切削未経験の新人が仕上げ形状を倣うプログラム作成時間を測定

手動でプログラミング

※ 事前に最低限のプログラミング教育受講



33分

プログラミング
言語不要！



タッチパネルで
簡単操作 ✨

T-PROGRAM GUIDE使用

※ 事前にT-PROGRAM GUIDE操作教育受講



11分

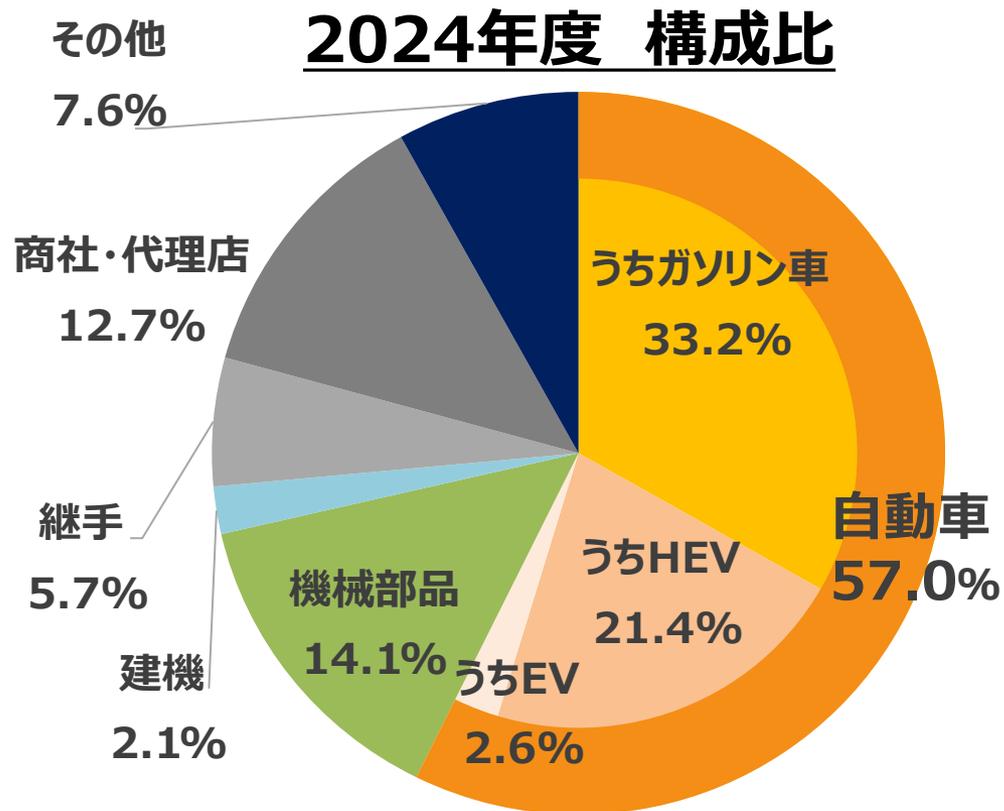
当社の売れ筋や新機種のXTL-8、XTL-8MY、XTL-8MYS、XTS-6、XT-6、XT-6M、XT-8、XT-8M、XT-8MY各機種において搭載可能！！

2

当社の現状



業種別受注先の状況（工作機械）



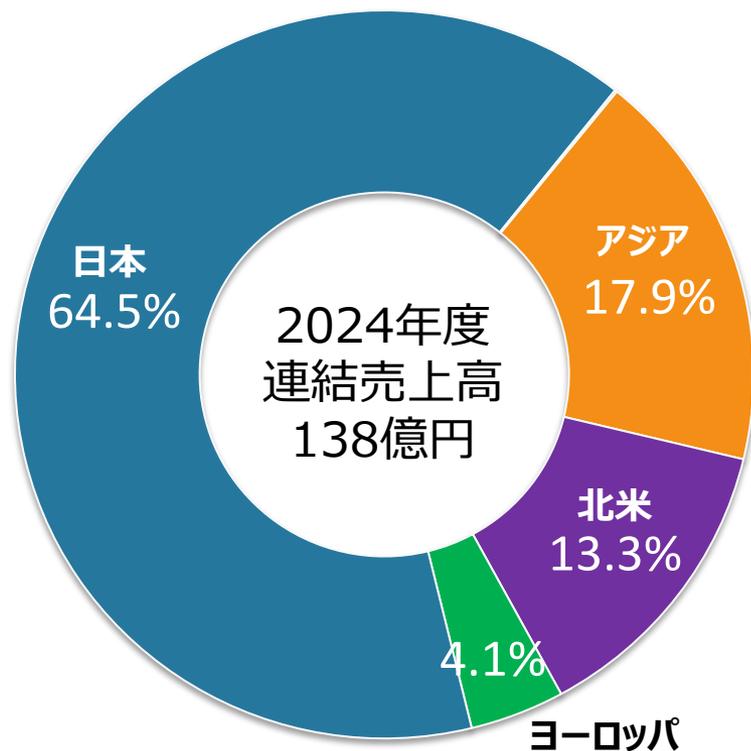
(注) 受注高は、旋盤・改造機に限定しています。

当社製品をご使用いただいているお客様

自動車業界	<ul style="list-style-type: none"> ・ TOYOTA ・ MAZDA 	<ul style="list-style-type: none"> ・ HONDA ・ 津田工業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ DENSO ・ ジェイテクト 他
自動車業界以外	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミネベアミツミ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SMC 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNAP-ON ・ 象印マホービン 他

グローバル展開

仕向地別連結売上高



アジア

タイ 6.9%
中国 5.1%
ベトナム 2.5% 等

北米

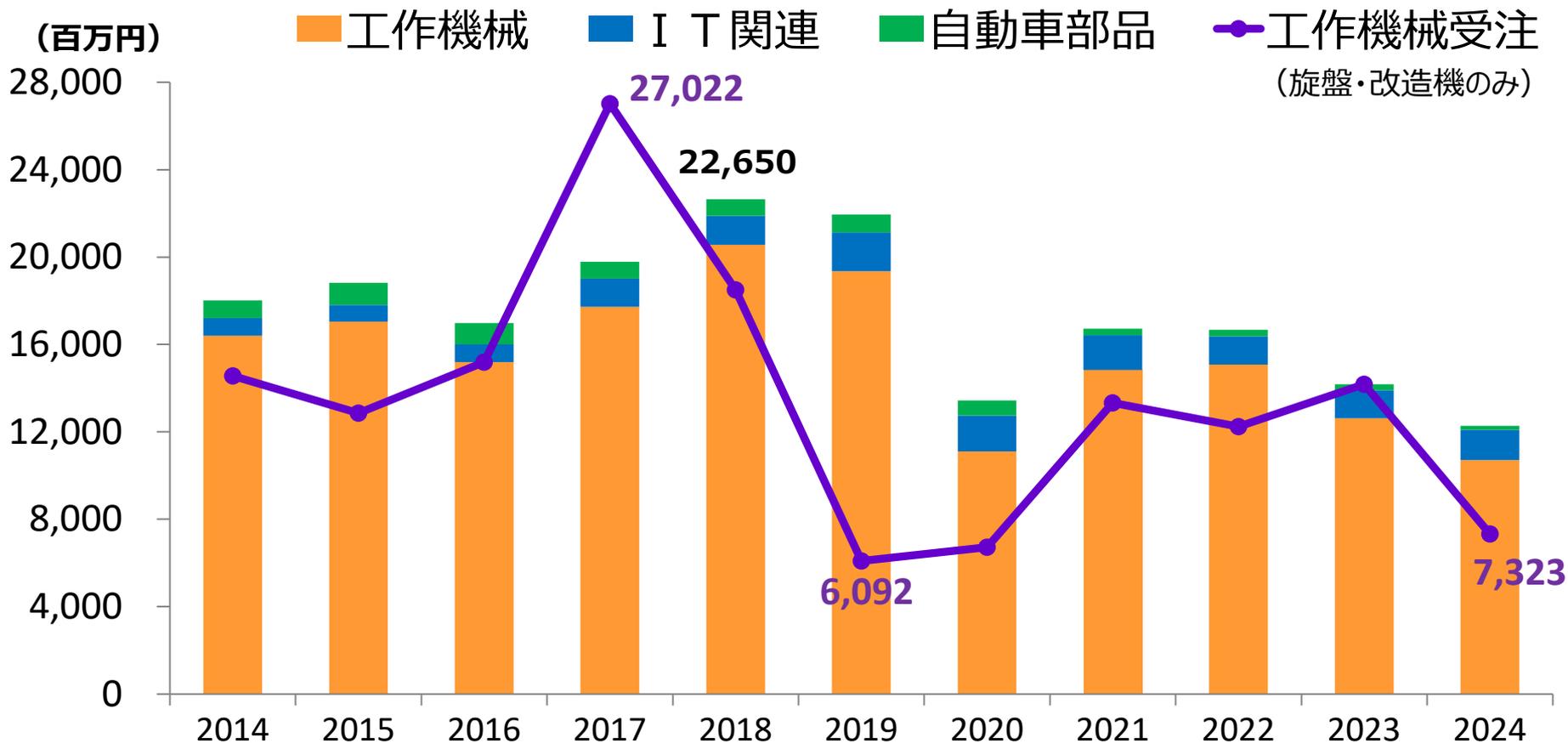
アメリカ 12.4%
メキシコ 0.9%

ヨーロッパ

ドイツ 1.9%
フランス 0.8% 等

- 約6割が日本国内向け
- 海外売上はアメリカ・タイ・中国が中心
- 今後、需要の伸びしろの大きい海外市場での販売を強化

■ 連結売上高・工作機械受注高の推移



- 国内の自動車産業の低迷に伴う、設備投資控えが継続している影響から、当社の売上高や営業利益が低調に推移
- 直近2期の営業利益が赤字となっているが、社内コストの見直し等により徐々に回復へ

競合状況

主な競合他社

オークマ、FUJ I、ツガミ、村田機械、TAK I S A W A 等

業界に占めるシェア

売上 ※2024年度実績

工作機械業界全体

シェア **0.8%**

業界…1兆5,974億円
当社…123億円

旋盤のみ

シェア **2.3%**

業界…5,334億円
当社…123億円

(参考) 生産台数 ※2024年度実績

工作機械業界全体

シェア **1.1%**

業界…53,417台
当社…561台

旋盤のみ

シェア **5.4%**

業界…10,310台
当社…561台

3

新たな経営方針 について



■ 新たな経営方針について

1. ミッション・ビジョン・バリュー(MVV)の策定

- 社員と会社が同じ目標に向かって行動するための座標軸を設定！

2. 長期ビジョンの策定

- 当社の目指す姿、ありたい姿を設定！

3. 中期計画2027の策定

- 今期より3年間で具体的に取り組むべき計画の設定！

4. 株主還元の充実化

- 今期より3年間の株主還元方針のご紹介！

1. ミッション・ビジョン・バリュー(MVV)の策定

- 会社の目指す姿や社員の指針となる「ミッション・ビジョン・バリュー」を新たに策定
- 社員の意見も取り入れたMVVのもと、全社一体となって更なる成長を志向し、企業価値の向上をはかる

理念体系

経営理念

高松機械は「社会に貢献」する

お客様には、安全でメリットのある商品を、従業員には、生活の安定と希望を、株主には、適切な配当を提供すると共に、協力企業とも共存共栄の精神をもって、社会の発展に積極的に貢献する。

Mission

私たちの使命、存在理由

- 社会課題を解決する製品、技術、サービスの提供を通じて、日本、そして世界のモノづくりを支える。

Vision

私たちの目指す姿、将来像

- お客様や社会の課題を解決に導く、進化を続けるビジネスパートナー
- 社員が地域や社会、家族に誇れる会社

Value

私たちの行動指針、判断基準

- 課題やニーズに徹底的に向き合い、チャレンジし続けます。
- 『稼ぐ機械』を提供し、お客様のモノづくりに貢献します。
- とともに働く仲間を尊重し、力を結集して、組織として最高のパフォーマンスを発揮します。

2. 長期ビジョンの策定 経営環境の認識と事業機会

10年後を見据えた経営環境変化 (メガトレンド)

社会・環境

- 気候変動への対応
 - ・ カーボンニュートラルの実現
 - ・ 環境負荷低減
- 多様な働き方を求める社会
 - ・ 人材の多様性、働き方改革
 - ・ 超高齢社会
- デジタル化社会
 - ・ スマート社会の到来

経済

- 国内市場の縮小
 - ・ 人口減・高齢化による低成長
 - ・ 労働市場縮小
- 新興国市場の拡大
 - ・ 新興国の高成長継続
 - ・ グローバル競争激化

技術

- 自動車業界の変革
 - ・ BEV、HEV
 - ・ 自動運転
 - ・ カーシェアリング
- AIやロボットの進化
- IoT、デジタル技術の進化
 - ・ ユーザ価値の変化

政治

- 地政学リスクの高まり
 - ・ 国家間の対立拡大
 - ・ サプライチェーンへの影響
- ESG/SDGsへの関心高まり
 - ・ 脱炭素・排出権取引
 - ・ 再生・省エネルギー政策

当社にとっての事業機会

自動車業界の変革

- 一時的なHEV需要拡大も想定されるが、中長期的にはBEV比率が高まる見通し
- 自動運転技術の進化、MaaSの拡大、カーシェアの普及、モビリティの電動化が進む

労働人口減少・技能者の減少

- AIやロボット技術を活用した自動化、熟練工の技術・ノウハウをデジタル化する取り組みが進展

環境・社会課題対応需要の増加

- 脱炭素、循環型社会の移行に向けた世界規模での環境関連技術への需要高まり
- AI・IoT等、デジタル技術革新への対応も必要

グローバル市場の拡大

- 新興国需要によりグローバルでは需要が増加

2. 長期ビジョンの策定 スローガンと長期戦略

「自動化技術×複合加工技術」で
お客様のモノづくりを支え続ける
グローバル・ソリューション・カンパニーへ！

長期戦略

既存事業からの持続的成長

工程集約促進に向けた 研究開発

- 複合加工機の開発
- カスタマイズのモジュール化

グローバル戦略 再構築

- 地域別戦略策定
- インド市場の開拓、拠点の
統合・整理

新たな分野への挑戦

新市場開拓

- 【工作機械事業】
非自動車分野の開拓強化
- 【IT関連製造装置事業】
半導体・医療分野などの
領域拡大

環境配慮型製品・ サービス領域拡大

- 省スペース、省エネの小型
製品
- 社会課題解決型製品の
販促と研究開発

事業ポートフォリオ見直し

- 事業の選択と集中
- 不採算事業撤退

中核事業再構築

- 収益改善に向けての基盤強化
- 経営資源再配分

組織・人材

- マネジメント、ガバナンス
- 人事制度再構築

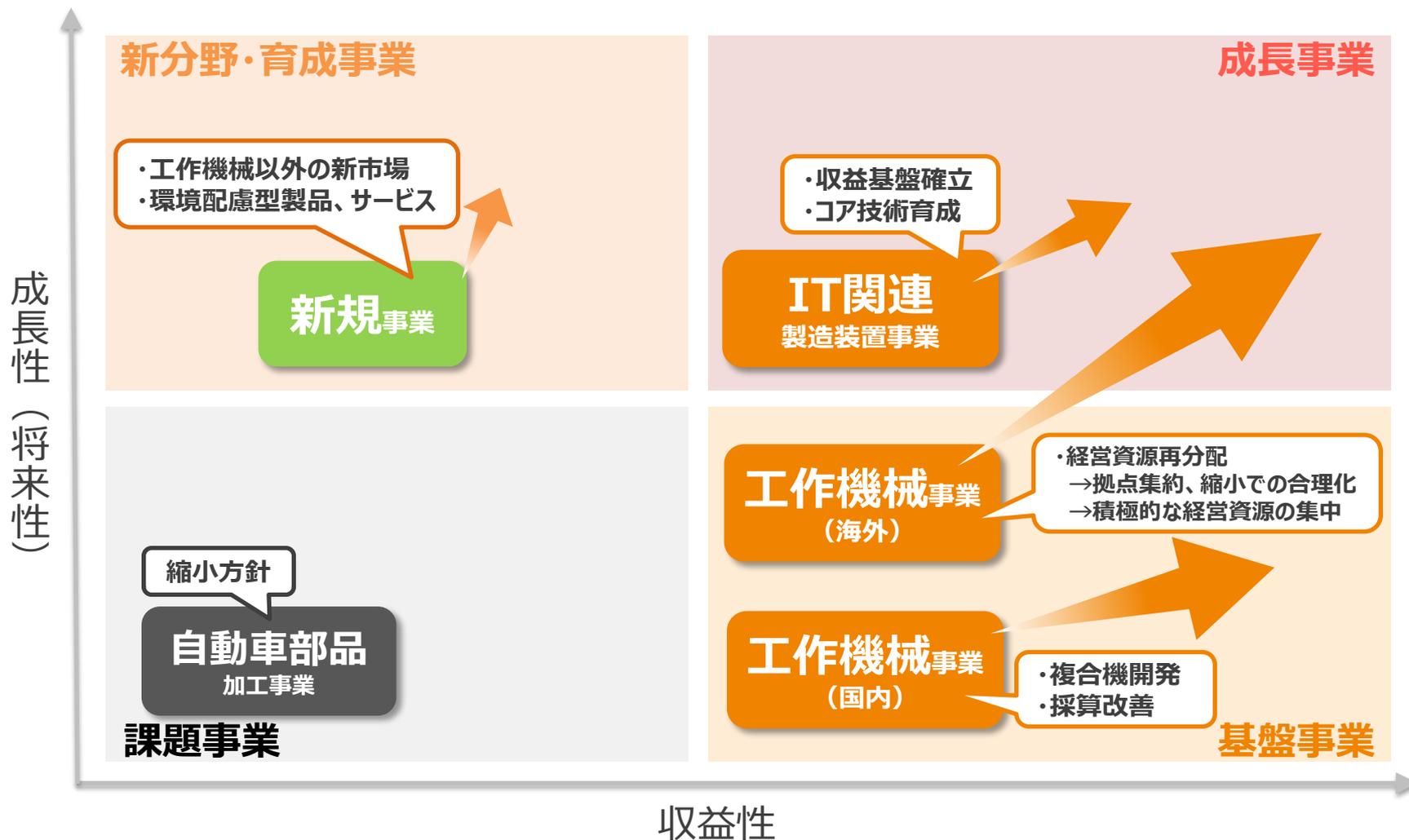
IoT・DX

- データの一元管理
- AIの活用

長期ビジョン実現に向けた企業体質強化

2. 長期ビジョンの策定 事業ポートフォリオ

- 成長性と収益性の2軸で事業ポートフォリオを管理し、全社視点で経営資源を最適化



3. 中期計画2027

【基本方針】

経営基盤強化と成長戦略の実行による収益性の改善

	戦略
【経営基盤強化】 黒字化に向けた組織体制強化	値決め（価格決定プロセスの再構築）
	営業体制強化
	全社バリューチェーン最適化
	データ一元管理化
	人的リソースの最適化
	コスト削減
【成長戦略の基盤強化と実行】	収益基盤の強化
	グローバル戦略再構築
	技術・研究開発の強化
	事業ポートフォリオ見直し

3. 中期計画2027 黒字化に向けた組織体制強化

■ 黒字体質の構築

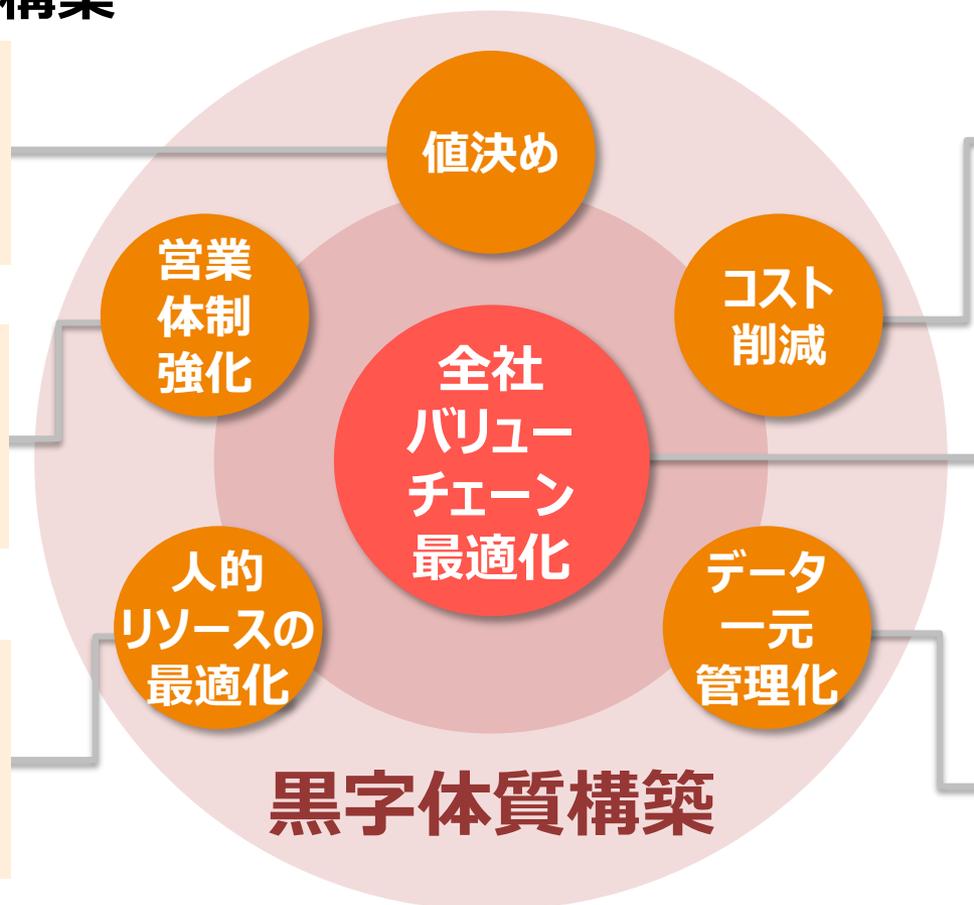
工作機械事業

● 「全社バリューチェーン最適化」をベースとして各戦略に取り組むことで、黒字体質を構築

- コストテーブル再構築による見積り精度の強化
- カスタマイズ部分の適正見積り作成

- 計画的な訪問の実施による成約率の底上げ
- 能動的な営業体制の確立による引合増加

- 工数確保（採用、教育、配置転換）
- 人員配置の最適化による組織パフォーマンスの底上げ



- 収益インパクトのある削減策の検討・実行
- 成果を必要な成長投資に配分

- 部門間連携の仕組み再構築
- BPR（業務改革）、業務合理化
- 各種ルールの再構築

- データ活用の目的・あり方見直し
- 設計データ活用
- 各活動を円滑化するシステム活用方針の明確化
- 業務負担の軽減

3. 中期計画2027 成長戦略の基盤強化と実行

■ 収益基盤の強化

工作機械事業

- 設計・開発、サービス、営業、生産の各部門が収益基盤強化に向けて、アクションプランを実施

■ 設計・開発の合理化

- 設計パターンや投入機種をモジュール化（標準化）し、顧客提供価値を落とさずに設計・開発コストを低減
- コア技術や戦略的な研究開発を強化し、差別化した機種を市場に投入

■ 営業力強化

- 顧客ニーズを踏まえたソリューションビジネスを展開
- カスタマイズ製品を適正価格で提供し、収益性を改善
- 部門間連携強化によるバリューチェーン最適化で生産性と顧客レスポンスを向上

収益基盤
強化

■ サービス体制の強化

- 客先の機種仕様データの一元管理とメンテナンス資料AI化
- メンテナンス教育ツールのデジタル化と教育体制確立
- サービス業務のアウトソース体制の整備

■ 生産体制の強化

- 品質：顧客満足度向上・不良削減
- コスト：見積精緻化とロス削減
- 納期：生産計画の精緻化・厳守
- 人材：時代の変化に対応できる人材の育成

3. 中期計画2027 成長戦略の基盤強化と実行

グローバル・ソリューション・カンパニーとして、**工程集約**も推進できるビジネスモデルを確立する

■ 技術・研究開発強化

工作機械事業

- カスタマイズに適した機種開発を中心にコア技術を深化させ、競争力を強化
- 加えて新機種による、工程集約を加速させ新たな成長機会を探求

コア技術の深化



カスタマイズに適した
機種開発



工程集約への対応

ビジネスモデル変革に向けた取り組み課題

これまでの領域

工程分割
(専用機)



自動化
技術

事業ドメインの拡大

多品種小ロット生産のための
メンテナンス性・段取り性の向上

加えていく領域

工程集約
複合旋盤 ⇒ 複合加工機

《自動化技術》

ServoROT-X1



ローダ



《複合加工技術》



3. 中期計画2027 成長戦略の基盤強化と実行

■ グローバル戦略再構築

工作機械事業

- 拠点別の事業性を理解し戦略を再構築
 - 日本国内 自動化技術の深化、非自動車分野の開拓
 - 北米 現地ディーラへの教育推進と関係強化
 - 中国 複合旋盤の現地開発・生産
 - ASEAN エンジニアのスキル向上、エントリーモデルの継続投入
 - ヨーロッパ 現地ディーラ開拓の強化

■ 事業ポートフォリオ見直し

IT関連製造装置事業 (受注拡大)

- アウトソースを活用した主要顧客向け売上拡大
- 他社との差別化をはかり新規顧客開拓

自動車部品加工事業 (縮小・撤退)

- 不採算事業であり、今後の成長性も見込めないため、早期撤退
- 主力の工作機械事業にリソースをシフト

3. 中期計画2027 財務計画

- 各施策を実行することにより、2025年度の黒字化、2027年度での営業利益率5.0%以上、ROE4.3%以上を目指す

(単位：百万円)

連結経営指標計画	実績	計画		
	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
売上高	13,893	15,287	16,000	18,000
工作機械事業	12,327	13,603	14,180	15,890
IT関連製造装置事業	1,383	1,500	1,700	2,000
自動車部品加工事業	182	184	120	110
営業利益	▲160	138	500	900
営業利益率	▲1.2%	0.9%	3.1%	5.0%
経常利益	▲103	133	520	930
親会社株主に帰属する当期純利益	▲645	85	390	700
ROE	▲3.9%	0.5%	2.5%	4.3%

4. 株主還元の充実化

● 中期計画2027において、新たな配当方針を策定

→ 下限と配当性向水準を設定し、利益還元の強化をはかる

- ① 安定的な配当水準を維持する方針に従い、下限として1株当たり年間配当額10円を維持する
- ② 配当性向は40%程度で設定し、業績の回復、利益の増額とともに株主への還元額を増加させる

(単位：百万円)

株主還元方針

	2025年度	2026年度	2027年度
売上高	15,287	16,000	18,000
親会社株主に帰属する当期純利益	85	390	700
配当性向	40% (下限10円)		
配当総額	110	156	280
1株当たり年間配当額	10円	14円	25円

サステナビリティの実現

※一部をご紹介します。

環境への 取り組み

あさひ工場
太陽光発電設備導入



正面ロビーで都度発電量を可視化

社会への 取り組み

大学・高専での講義



社員への 取り組み

健康経営優良法人
2025認定



詳しくは右のQRコード、または下のURLにアクセスし、ご確認ください。
<https://www.takamaz.co.jp/sustainability/>



(参考資料)

(参考) 2025年度計画

(単位：百万円)

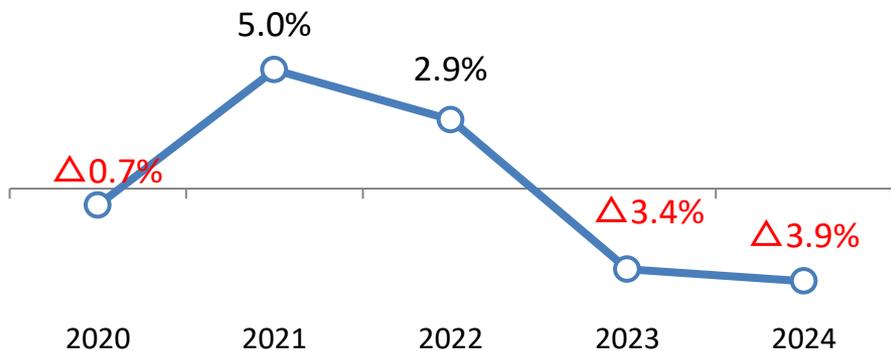
	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度予想	
			見込み	対前期比
受注高	14,452	11,912	14,065	+18.1%
売上高	14,184	13,893	15,287	+10.0%
工作機械事業	12,618	12,327	13,603	+10.4%
I T 関連製造装置事業	1,283	1,383	1,500	+8.4%
自動車部品加工事業	282	182	184	+0.8%
営業利益	△386	△160	138	—
営業利益率	△2.7%	△1.2%	0.9%	—
経常利益	△608	△103	133	—
親会社株主に帰属する当期純利益	△565	△645	84	—
1株当たり当期純利益 (円)	△52.26	△59.95	7.89	—

※ 受注高は工作機械事業及び I T 関連製造装置事業の受注高の合計です。
 工作機械事業の受注高は、旋盤・改造機、部品等の合計です。

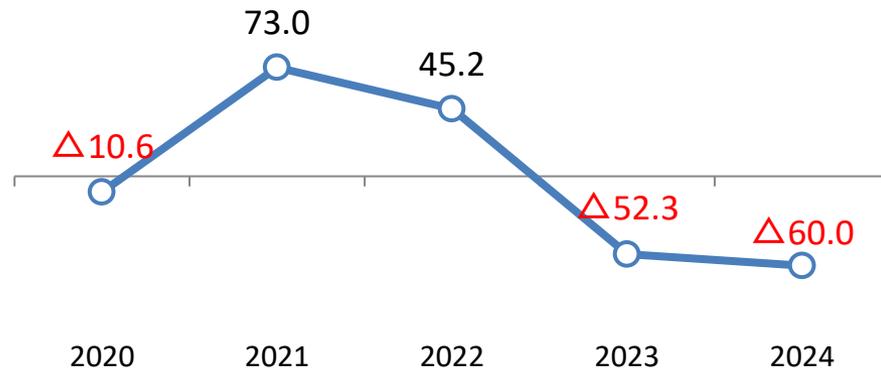
- ✓ 米国の関税政策に起因する先行きの不透明感が継続し、当社の主要顧客である自動車関連企業各社が設備投資を抑制したことが影響し、8/8に第2四半期業績予想を修正しました。
- ✓ 通期業績予想は、先行きが不透明な状況の中、今後の工作機械需要動向を注視し、下期業績への影響を見極める必要があるため、修正していません。

（参考）各種指標

ROE

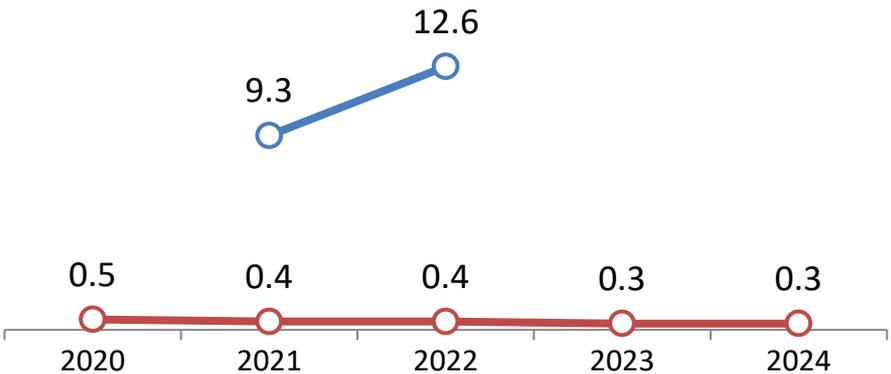


1株当たり当期純利益金額 (単位：円)



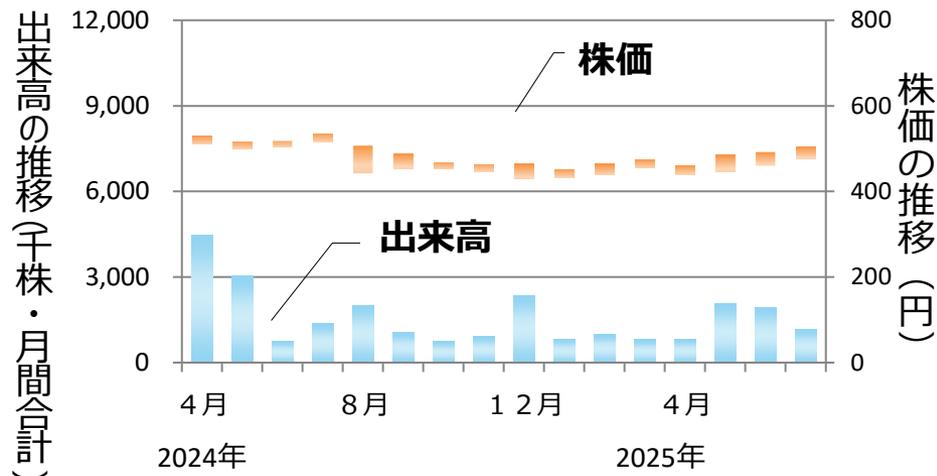
PBR、PER (単位：倍)

○ PBR ○ PER



※ 2020年度、2023年度および2024年度のPERは、親会社株主に帰属する当期純損失であるため記載していません。

株価、出来高



投資家・株主の皆様への情報発信

HP

TAKAMAZ

検索



<https://www.takamaz.co.jp/>

● トップページ



● 株主・投資家情報ページ



刊行物



株主通信

決算説明会資料

2025年3月期決算
及び
中期計画2027説明会

2025年4月1日
高松機械工業株式会社(証券コード：4455)
TAKAMAZ

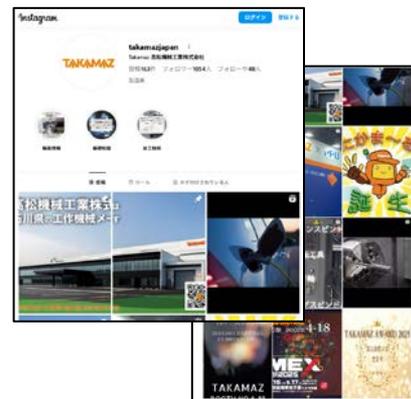


サステナビリティ レポート

ORANGE NEWS

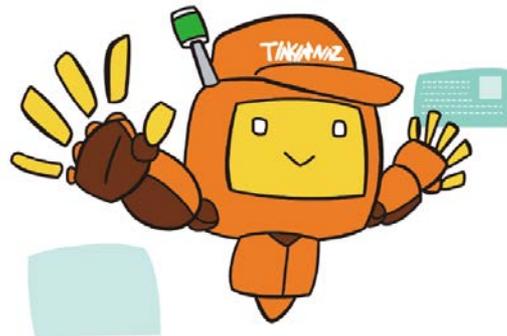


SNS



TAKAMAZ

<https://www.takamaz.co.jp>



当社公式キャラクター「たかま〜る」のご紹介

社内公募により、2025年4月に誕生しました。
名前は、上昇イメージの「高まる」と、良い・丸く収めるの「〇」が由来となっており、当社の製品を使って気持ちを高めてほしい、という願いが込められています。